



国宝「支倉常長像」  
(ユネスコ記憶遺産)  
(仙台市博物館蔵)

## 特集

### 慶長遣欧使節出帆から400年

# 支倉常長が遺したものは。

1611年12月、数千の命を奪ったと言われる大地震が発生。その地震による大津波で仙台藩は大きな悲劇に見舞われました。

その苦難から2年後の1613年(慶長18年)秋、石巻の月浦から、仙台藩主伊達政宗の命を受けた支倉常長を大使とする慶長遣欧使節が、「サン・フアン・パウティスタ号」に乗り込み、ヨーロッパへと旅立ちました。今年はその時から数えて、400年の節目の年にあたります。

今号では慶長遣欧使節関係資料(国宝)を所蔵する仙台市博物館の学芸員佐々木徹さんに、使節の目的や功績などについてお話を伺いました。また今年度は関連行事も数多く開催されます。この機会に、さまざまな困難を乗り越えて大洋を渡った先人たちの思いにふれてみませんか。



国宝「ローマ教皇パウロ五世像」(ユネスコ記憶遺産)(仙台市博物館蔵)



# 慶長遣欧使節

## 【基礎編】



政宗の悲願をかなえようと奔走した家臣に注目してください。

仙台市博物館 学芸員

さ さ き とおる  
佐々木 徹 さん

### 外交使節の船に 大勢の商人が乗船

慶長遣欧使節の大使に任命された支倉常長という人物は、長きにわたり伊達政宗のそば近くに仕え、情報収集や伝達の仲立ちを行う重要な役割を担っていました。仙台藩の中では中級家臣でしたが、政宗からの信頼は厚く、人間関係も密に育まれていたようです。

では政宗はどのような目的で、使節を遙か大洋の向こうに送り出したのでしょうか。その目的は2つあったと言われています。一つは仙台藩領に、キリスト教の宣教師を派遣してもらうこと。そしてもう一つが、スペイン領になつていったメキシコとの直接貿易を実現させることでした。

当時のスペインは、キリスト教の布教と貿易を一体化して推し進めるという立場をとっていたため、「貿易」と「キリスト教の布教」は対にして考えられていました。しかし、その頃の江戸幕府は、貿易は認めるが、キリスト教の布教は認めない態度をとっていました。政宗はそれを知った上で、「宣教師派遣の許可を得よ」と常長に命じました。幕府のやり方では交渉が失敗するのが目に見えていたので、自分の方針を貫いたところに政宗の剛胆さを伺い知ることができます。

次に、使節の構成員についてですが、仙台藩の正史『伊達治家記録』によると、出発時の人数はおよそ180人。十数人の仙台藩士、常長と同じく大使に任ぜられた宣教師ルイス・ソテロをはじめ、十数人の江戸幕府関係者と40人の南蛮人が乗船。残りはずべて商人でした。政宗は出発の段階から、スペインで商売を始めようと企てていたことが推察できます。

### ローマ教皇に謁見、 待ち受けた悲劇

1613年10月28日に月浦を出発して太平洋を航行すること3カ月、一行はメキシコのアカプルコ港に到着します。1614年にはスペイン艦隊の中のサン・ホセ号に乗りかえ大西洋を横断し、スペイン本国に渡りました。各地で歓迎されながらたどり着いた首都マドリッドで、国王フェリーペ3世に謁見し、政宗の親書を手渡した常長は、当地で洗礼を受けます。そして「ドン・フィリップ・フランシスコ・ファシクラ」という洗礼名が与えられました。

1615年、ついに常長はローマ教皇パウロ五世に謁見、政宗からの親書を手渡すことができました。この時、すでに月浦を出帆して2年が経過していました。

ローマでは、いわゆる名誉市民のような意味合いを持つローマ市民権が与えられ、さらに貴族の位に列せられるなど、手厚い歓迎を受けた常長でしたが、スペインとの貿易交渉は困難を極めました。それは日本で宣教師やキリシタンの厳しい取り締まりが行われていたことなどが要因と言われています。

それでも、何とかして政宗の悲願をかなえようと、常長は懸命に交渉にあたりました。しかし1617年、とうとうヨーロッパの地を離れ、帰国の途になければならない状況に追い込まれます。最後まであきらめずに嘆願書を出し続け、スペイン国王からの返答をマニラで待つこと2年。それでも明確な返答は得られず、出帆から7年後の元和6(1620)年8月、仙台に戻ってくることとなります。

(※佐々木さんのお話は、9ページの【応用編】に続きます)

# 慶長遣欧使節 行程図



## 「ご存じですか？」 慶長遣欧使節にまつわる あれこれ

貿易をしようとしたモノとは？

すぐにも商売が始められるようにと、多くの商人を乗せてヨーロッパをめざした「サン・ファン・パウティスタ号」。残念ながら、船にどのような品や商売道具が積み込まれたのかを知る詳細な記録は残っていません。ただ輸出品としては金や銀といった原材料を中心に、刀などの工芸品類、輸入品としては毛織物や薬品、革製品、香辛料を想定していたようです。西洋の品々に関心が高かった政宗ですから、珍しいものを仙台藩に流通させたかったのかもしれない。

常長の日記が存在する!?

常長自身が旅の間に綴った日記、大小19冊が幕末くらいまで存在したと言われています。仙台藩が支倉家から没収した品々を、大槻玄沢という蘭学者が観察、内容を記した『金城秘鑑』きんじょうひかんには、この日記が確かに存在したことを裏付ける記述があります。ところが明治時代に所在が不明に。発見されれば、謎の多い常長一行の行動が解明できるかもしれません。その日まで、大いに想像をめぐらす楽しみを味わいましょう。

## 国宝「ローマ市公民権証書」をよく見てみると...

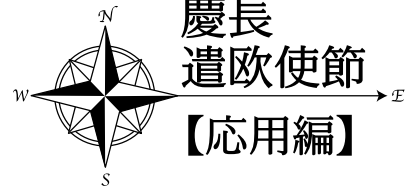
「交流の証」とも言うべき文章の中に、「奥州」や「仙台」という単語を見ることが出来ます。まさに「仙台」の名がヨーロッパで記されたこの時こそ、仙台が世界デビューを果たした瞬間と言えるでしょう。この証書には常長、そして政宗の名の記述も見ることが出来ます。



国宝「ローマ市公民権証書」  
(ユネスコ記憶遺産)(仙台市博物館蔵)

# 慶長遣欧使節

## 【応用編】



### 400年の時を超えて 受け継ぐ勇氣

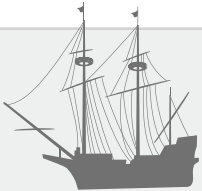
常長が航海に出た当時は、世界は15世紀頃からヨーロッパ中心に始まった大航海時代に突入。まさにグローバル化が進む時代の流れの中で、日本から海外へと乗り出し、ヨーロッパの地を踏んだ最初の外交使節となったのが慶長遣欧使節です。常長一行よ

り約20年先にヨーロッパを訪問した天正遣欧使節は、親善が主な目的だったため。その勇姿はまさに国際都市としての魅力の世界に向けて発信する、いまの仙台の姿にも通じるものがあるように思います。また造船技術も、ましてマスメディアも発達していない時代に、命がけて大洋を渡り、ヨーロッパの重要人物と堂々と会談。そして、再び仙台の地に生きて帰って来たことは、歴史的にも文化的にも大きな意味があります。震災復興のただ中にある仙台台として宮城に、勇氣を与えてくれるのではないかと思います。

常長は最終的には政宗に命ぜられた使命を果たすことはできませんでしたが、ヨーロッパの文物を数多く日本に持ち帰りました。今年10月、当博物館では、所蔵する品々を含め、国内外からお借りした慶長遣欧使節にまつわる多彩な文化財などを一堂に集めた「慶長遣欧使節出帆400年・ユネスコ世界記憶遺産登録記念特別展 伊達政宗の夢―慶長遣欧使節と南蛮文化」を開催します。200点ほどの展示を予定していますが、そのうちの約130点は他の博物館などからお借りします。普段はなかなかお借りできないような資料も、今回は「震災復興に文化的な面で寄与したい」という皆さんの温かい志によって、貴重な品々をお借りすることができました。東北初公開の資料もあります。

ヨーロッパとの外交交渉を成功させるべく、帆船で大海原を渡った先人たちが、いまこの地に生きる私たちに残し、どんな言葉を語りかけてくれるのか。ぜひ当博物館やさまざまな関連行事に足を運んでいただき、政宗の願いをかなえようと奔走した家臣が、この地に生きていたことを改めて認識していただければうれしいです。

### 慶長遣欧使節 出帆年表



1613年10/28 慶長18年 9/15	月浦(現・石巻市)からサン・ファン・パウティスタ号出帆。
1614年 1 /28 (25日あるいは29日とも) 慶長18年 12/19	スペイン領メキシコのアカプルコ港に到着。
1615年 1 /30 慶長20年 1/2	スペイン国王フェリペ3世に謁見。
1615年10/18 元和元年 8/26	イタリアのチヴィタ・ヴェッキア港に入る。
1615年10/29 元和元年 9/7	ローマ入市式。
1615年11/ 3 元和元年 9/12	サン・ピエトロ宮で教皇パウロ五世に謁見。
1615年11/23 元和元年 10/3	常長を含む8人にローマ市民権が授与される。
1616年 1 / 7 元和元年 11/18	再びスペインと交渉するためローマ市を出発。
1617年 7 / 4 元和 3年 6/2	スペイン(セビリア)を出発し、帰国の途に着く。
1618年 4 / 2 元和 4年 3/7	迎えに来たサン・ファン・パウティスタ号でメキシコのアカプルコ港を出帆。
1620年 8 元和 6年 7	ソテロをマニラに残し、パウティスタ号がスペインに買取されたため便船で長崎に帰る。
1620年 9 /20 (または9/22) 元和 6年 8/24	常長、仙台に到着し、政宗に報告。その直後、仙台藩領内にキリスト教禁止令が発せられる。

<p>2月</p> <p>● 2月2日(日) 東京エレクトロンホール宮城</p> <p>「音楽と踊りのタベ」</p> <p>● 2月2日(日) 東京エレクトロンホール宮城</p>	<p>1月</p> <p>● 1月28日(火) 石巻市内ホテル</p> <p>● 1月27日(月)～2月2日(日) 仙台市内ホテルほか</p>	<p>12月</p> <p>● 12月7日(土)・8日(日) 東京エレクトロンホール宮城</p>	<p>11月</p> <p>● 11月1日(金) メルパルク仙台</p> <p>● 11月3日(日)・4日(月) サン・ファン館ほか</p>	<p>10月</p> <p>● 10月22日(火)～11月4日(月) 仙台市博物館ギャラリー</p> <p>● 10月28日(日) 石巻市内ホテル</p>	<p>10月</p> <p>● 10月4日(金)～11月17日(日) 仙台市博物館</p> <p>● 10月5日(土)・26日(土) 仙台市博物館</p>
---	---	--	--	---	---

【慶長遣欧使節出帆400年記念事業 おもな行事】  
(※内容・開催日・場所の順番になっていません)